

小林市文化財調査報告書 第7集

市内遺跡発掘調査報告書

— 平成 22 (2010) 年度 —

2011年3月

宮崎県小林市教育委員会

序 文

この報告書は、小林市教育委員会が平成 22 年度に実施した試掘・確認調査の報告書です。

近年、小林市では開発事業等の増加により、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。平成 4 年度から平成 5 年度にかけて市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、450 カ所以上の遺跡が確認されています。小林市教育委員会ではこの結果を受けて、開発区域内の遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところです。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層の御理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました関係諸機関並びに地権者の方々、また発掘調査に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

小林市教育委員会

教育長 佐藤 勝美

例　　言

1 本書は、小林市教育委員会が平成22年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。

2 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会

教育長 佐藤 勝美

教育部長 久米 勝彦

社会教育課長 大角 良弘

社会教育主幹 芹田 直茂

文化財主幹 天辰 より子

庶務担当 加藤 義和

調査担当 増谷 理絵

秦 広之

発掘作業員

3 本書の執筆及び編集は増谷が行った。

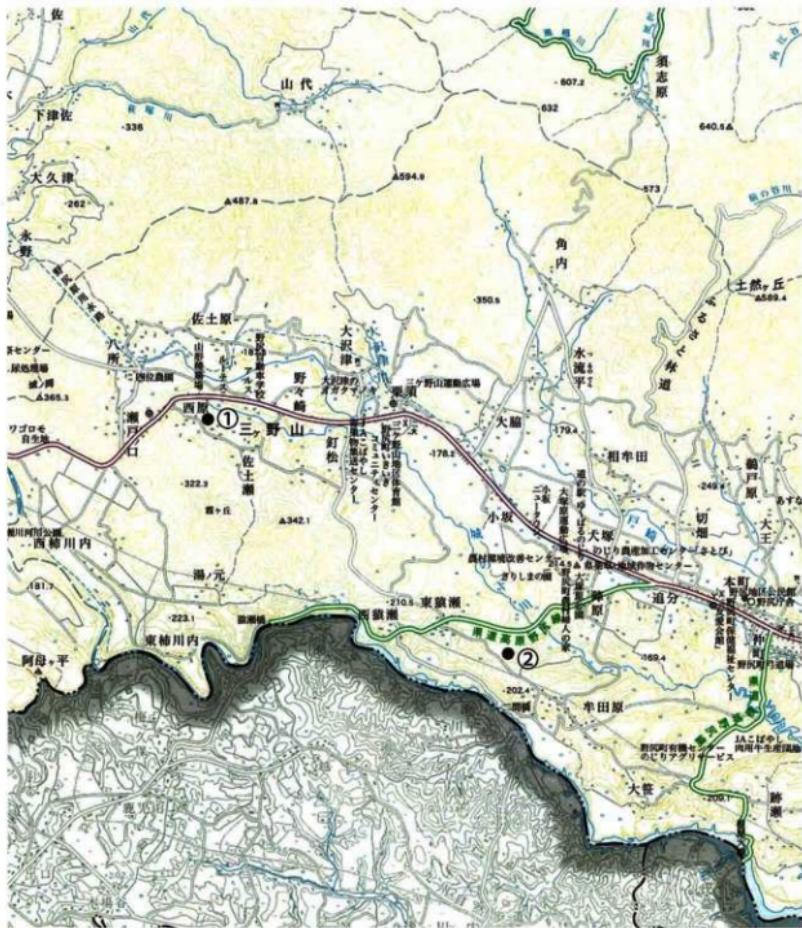
4 本書に利用する位置図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを使用している。

本 文 目 次

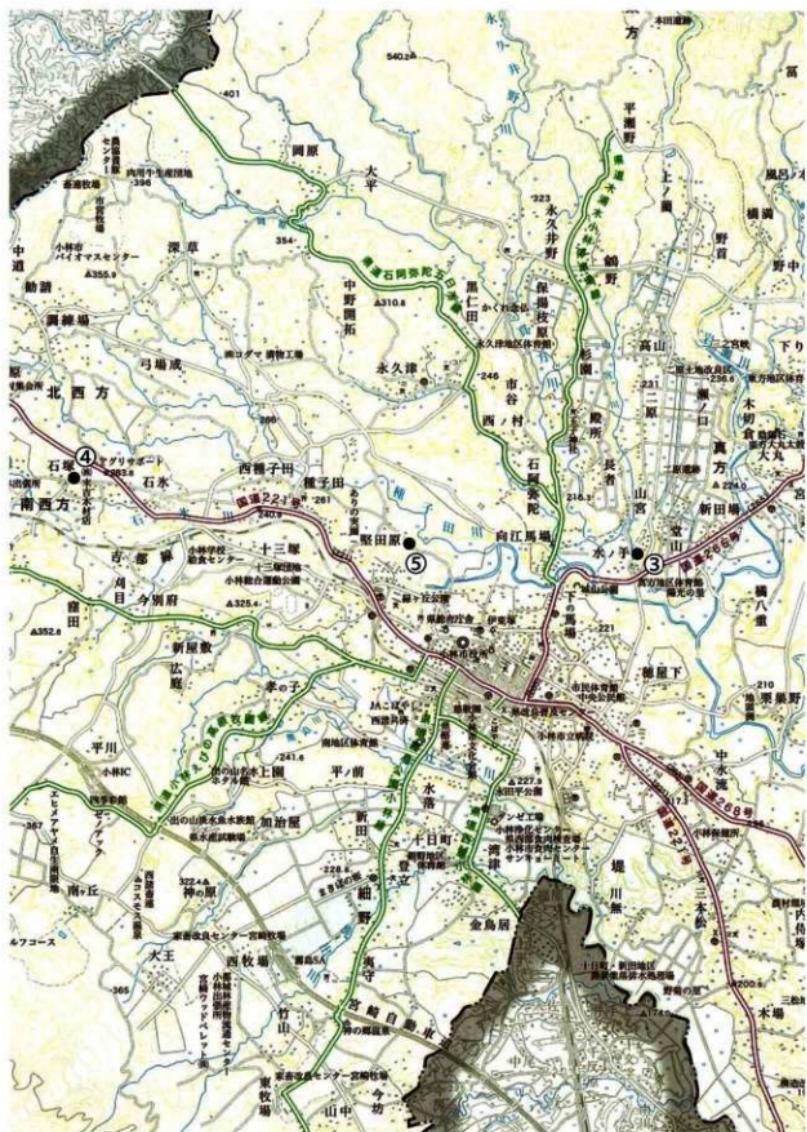
◆調査の記録	1
1 西原地区	4
2 白坂地区	6
3 大豆別府地区	7
4 石塚地区	9
5 内屋敷地区	12
6 奈佐木地区	14
7 八久保地区	15

◆調査記録

近年、小林市では開発事業等の増加により、各種開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっている。今年度は開発事業の予定されていた白坂地区、大豆別府地区、石塚地区、内屋敷地区、奈佐木地区、八久保地区的試掘確認調査を行い、遺構および遺物の有無について調査した。なお、昨年度末に実施した三ヶ野山地区の調査報告は、平成21年度刊行分に間に合わなかったため、今年度の報告書に掲載している。



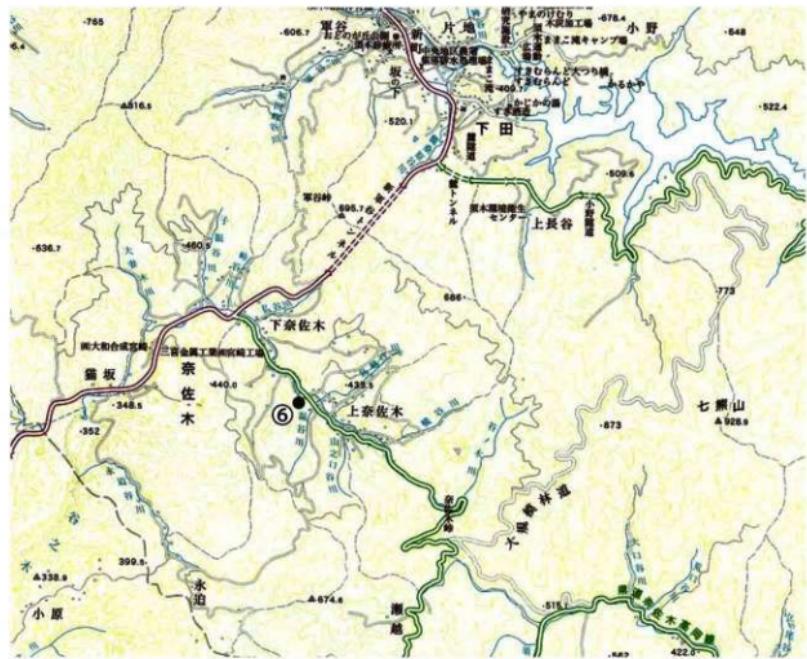
①西原地区 ②白坂地区



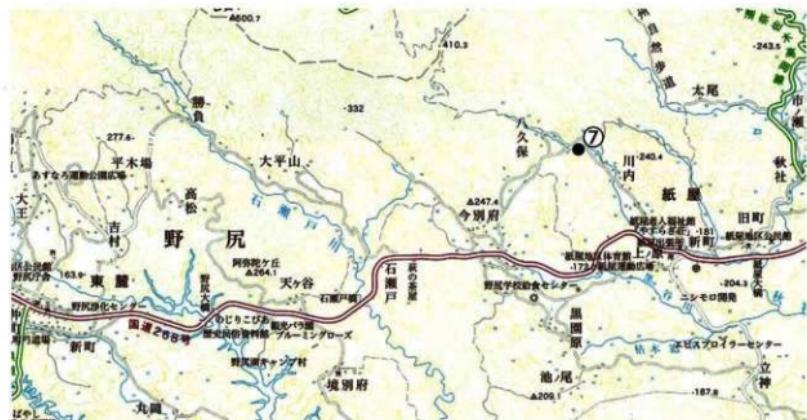
③大豆別府地区

④石塚地区

⑤内屋敷地区



⑥奈佐木地区



⑦八久保地区

1 西原地区（小林市野尻町三ヶ野山字西原）

〔遺跡の位置と環境〕

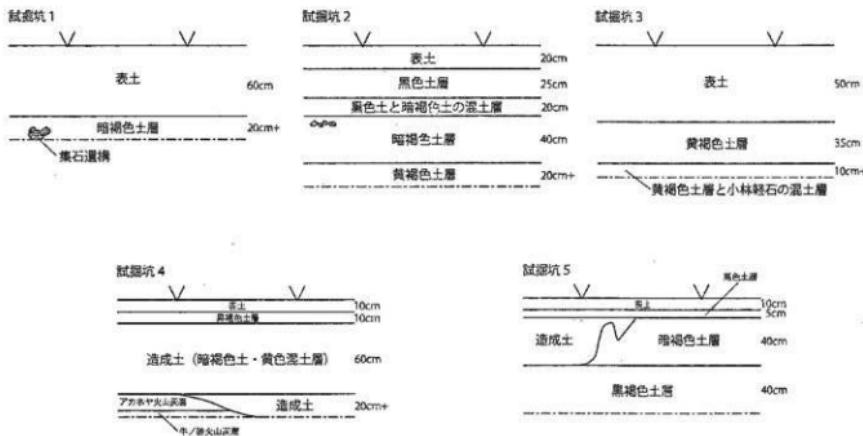
調査地は野尻地区の西部、国道 268 号線から南東方向に町道を約 300 m 進んだ所に位置している。調査地北側には城之下川が流れ、南方には標高 350 m 前後の山々が連なっている。

〔調査に至る経緯〕

西原地区では畠所有者による農地改良（天地返し）が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、所有者が畠を掘削中に縄文土器や石鏃、焼石が出土した。畠地所有者より市教育委員会へ連絡があり、平成 22 年 3 月に遺跡の有無を確認する調査を実施した。

〔調査の概要〕

計画予定地内に計 5 箇所の試掘坑を設け、地表面から深さ約 0.8 m ~ 1.25 m 程度掘削した。その結果、2 箇所の試掘坑より、縄文時代早期の層位から集石遺構 2 基を確認した。調査地東側の試掘坑 2 箇所からは、現代の造成の痕跡が確認され、縄文土器・弥生土器・須恵器などの遺物が出土した。また、他の試掘坑からは、黄褐色土層及びその下位の黄褐色土（小林ボラを含む）から縄文土器及び黒曜石などが出土した。包含層からの遺構・遺物の出土により、新たな遺跡の発見となった。





試掘坑 1



試掘坑 1



試掘坑 1 出土遺物



試掘坑 2



試掘坑 3



試掘坑 4



試掘坑 5



表採遺物

2 白坂地区（小林市野尻町東麓字白坂）

〔遺跡の位置と環境〕

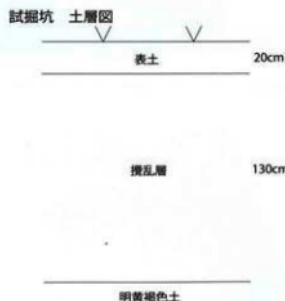
調査地は野尻地区の南西部に位置する。周囲は畑地帯で、調査地の東側には谷が入っている。

〔調査に至る経緯〕

白坂地区では携帯電話無線基地局建設が予定されていた。計画予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「境ヶ谷第1遺跡」の隣接地であったことから、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、試掘調査を実施することとなった。

〔調査の概要〕

工事予定地内に試掘坑を1箇所設け、地表面から深さ約1.5m程度まで人力で掘削した。調査地は地表下1.5mまで攪乱を受けており、シラスやアカホヤブロック、石などが入り混じって上層は大きく削平されていた。地表下1.5mで明黄褐色土層が確認できたため、上面精査等を行ったが遺構・遺物は確認できなかった。



3 大豆別府地区（小林市真方字大豆別府）

〔遺跡の位置と環境〕

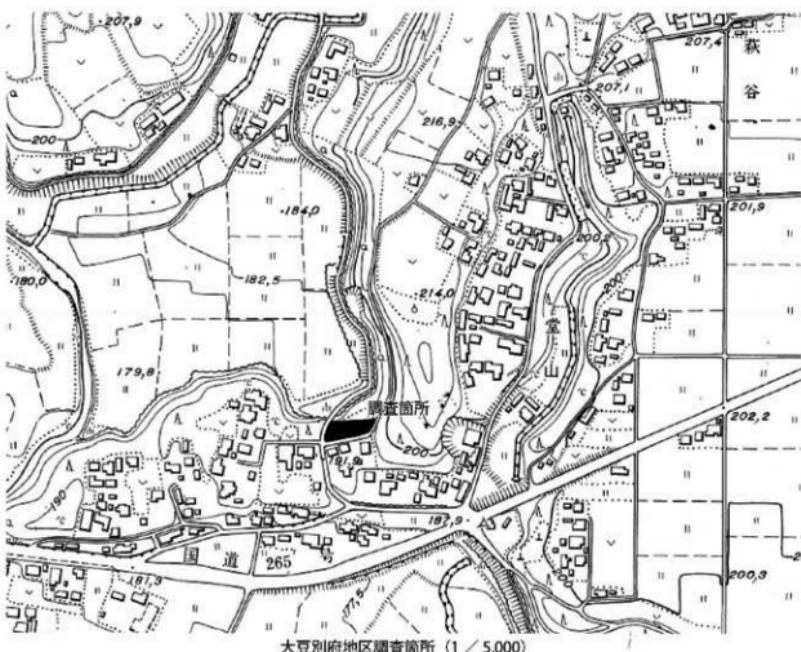
調査地は小林地区の中央部に位置する。標高 220 ~ 230 m 前後の広大な二原台地の端部であり、現況は原野である。

〔調査に至る経緯〕

大豆別府地区では、市建設課による市道新設工事が予定されていた。計画予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地「二原遺跡群」の範囲内に入っていたことから、市建設課と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することとなった。

〔調査の概要〕

工事予定地内に 3 箇所の試掘坑を設け、地表面から深さ約 1.7 ~ 2.9 m まで重機および人力で掘削した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。



試掘坑 1 土層図



試掘坑 1

表土 70cm

黒色土 50cm

褐色土 10cm

アカホヤ火山灰層 20cm

牛ノ脛火山灰層 5cm+

試掘坑 2 土層図



試掘坑 2

表土 60cm

黒色土 50cm

褐色土 10cm

アカホヤ火山灰層 20cm

牛ノ脛火山灰層 10cm

黒褐色土 20cm

暗褐色土 50cm

褐色土（小林ボラ含む） 10cm+

試掘坑 3 土層図



試掘坑 3

表土 70cm

黒色土 40cm

褐色土 10cm

アカホヤ火山灰層 20cm

牛ノ脛火山灰層 15cm

黒褐色土 25cm

暗褐色土 50cm

褐色土（小林ボラ含む） 30cm

小林ボラ 10cm+

4 石塚地区（小林市北西方字石塚）

〔遺跡の位置と環境〕

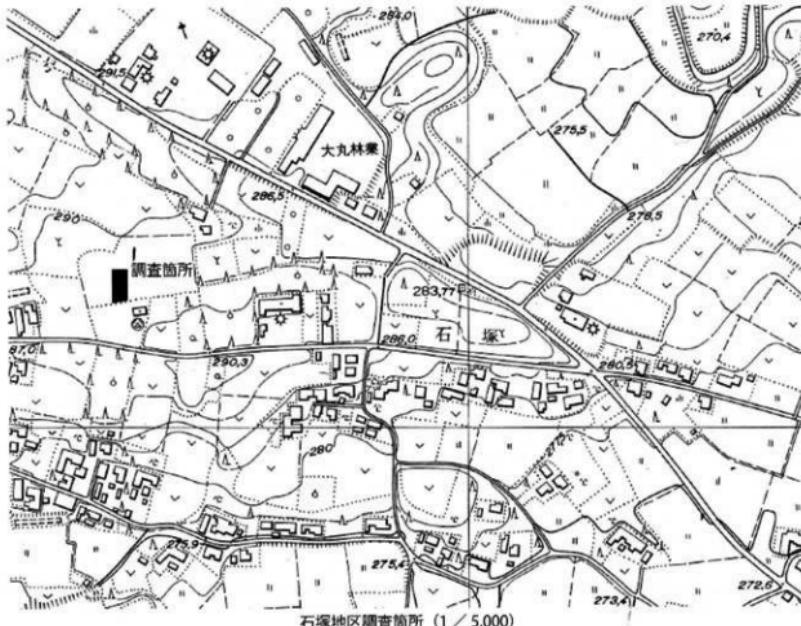
調査地は小林地区の西部に位置し、現況は畑地である。

〔調査に至る経緯〕

石塚地区では民間会社による農業用倉庫及び事務所建設が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「尾中原遺跡」の隣接地であったことから、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するための試掘調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地内に6箇所の試掘坑を設け、地表面から深さ約1.2mほど人力で掘削を行った。現況は畑地であり、地表下約50cmまで耕作土も見られたが、比較的土層の残りは良く、黒ボク土以下の土層が確認できた。深さ約1.2mまで掘削を行ったが、遺構・遺物は出土しなかった。





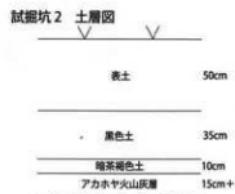
調査地



試掘坑 1



試掘坑 2





試掘坑 3

試掘坑 3 土層図

表土	55cm
黒色土	40cm
暗茶褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	15cm+



試掘坑 4

試掘坑 4 土層図

表土	25cm
黒色土	40cm
暗茶褐色土	15cm
アカホヤ火山灰層	30cm+



試掘坑 5

試掘坑 5 土層図

表土	35cm
黒色土	45cm
暗茶褐色土	5cm
アカホヤ火山灰層	35cm



試掘坑 6

試掘坑 6 土層図

表土	35cm
黒色土	50cm
暗茶褐色土	10cm
アカホヤ火山灰層	25cm+

5 内屋敷地区（小林市真方字内屋敷）

〔遺跡の位置と環境〕

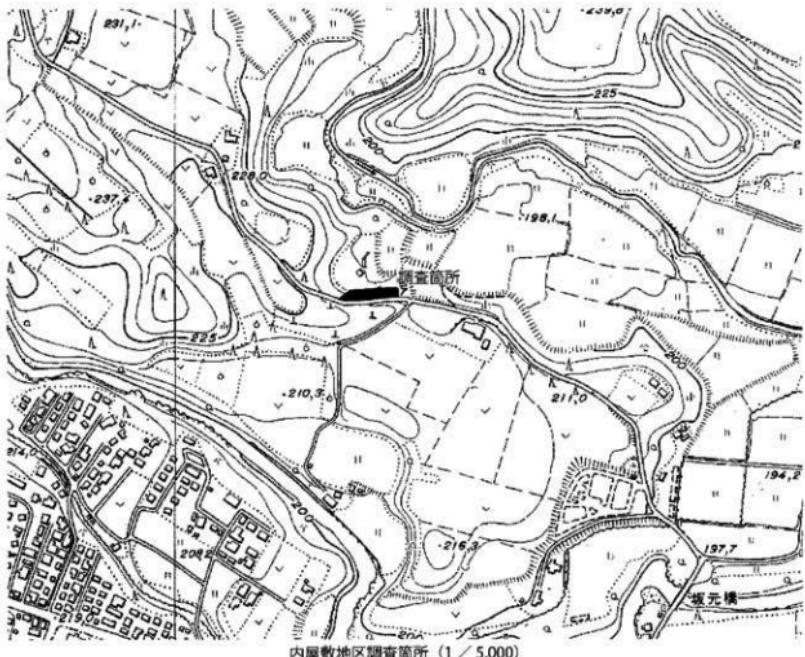
調査地は小林地区の北西部に位置する。現況は山林である。

〔調査に至る経緯〕

内屋敷地区では、市建設課による市道改良工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「種子田遺跡群」の範囲に含まれており、縄文時代～弥生時代の遺物散布地として認識されていた。そこで、市建設課と市教育委員会と協議を行ったところ、工事施工前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

調査地に試掘坑を2箇所設定し、地表面から深さ1.1～1.3mまで掘削した。その結果、どちらの試掘坑も地表面から腐植土が厚く堆積し、北方向に向けて傾斜していた。遺構・遺物は確認されなかった。





試掘坑 1

試掘坑 1
V V

黒色土



試掘坑 2

褐色土と黒色土の混土層
90cm
110cm
黒色土
120cm
130cm
褐色土

試掘坑 2
V V

暗褐色土

80cm
90cm
黒色土
110cm



作業風景

6 奈佐木地区（小林市須木奈佐木）

〔遺跡の位置と環境〕

調査地は須木地区の南西に位置し、標高約390m前後の山上にある。中世の山城であり、伊東48城の一つである。

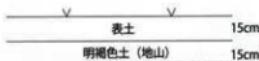
〔調査に至る経緯〕

奈佐木地区では、携帯電話無線基地局建設が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「奈佐木城跡」の範囲に含まれており、城跡として認識されていた。そこで、事業者と市教育委員会との協議の結果、工事施工前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

調査地に1箇所の試掘坑を設定し、地表下0.3mまで人力による掘削を行った。その結果、地表下0.15mで基盤層と考えられる明褐色土を確認し、この面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

試掘坑土層図



試掘坑写真（北西から）



試掘坑写真（北から）

7 八久保地区（小林市野尻町紙屋字八久保）

〔遺跡の位置と環境〕

調査地は野尻地区の東部に位置する畑地である。周囲を山で囲まれ、南には神谷川が流れている。

〔調査に至る経緯〕

八久保地区では、携帯電話無線基地局建設が予定されていた。計画予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「中水流遺跡」内であったことから、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を調査するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

予定地に試掘坑を一箇所設定し、深さ 1.0 mまで人力で掘削した。その結果、上層は大きく削平され、攪乱を受けており、石や小礫を多く含んでいた。地表下 0.65 m以下で黄褐色土と黒色土が確認できたが、遺構及び遺物は出土しなかった。



調査地



試掘坑

『引用・参考文献』

『小林市史 第一巻』小林市 1993

『小林市文化財調査報告書第 7 集 市内遺跡詳細分布調査報告書』小林市教育委員会 1994

『須木村文化財調査報告書第 2 集 須木村遺跡詳細分布調査報告書』

須木村教育委員会 1994

『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書 II』宮崎県教育委員会 1999

『野尻町文化財調査報告書第 6 集 野尻町遺跡詳細分布調査報告書』

野尻町教育委員会 1994

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書—平成22（2010）年度—
シリーズ名	小林市文化財調査報告書
シリーズ番号	第7集
編著者名	増谷 理絵
所在地	宮崎県小林市細野300番地
発行年月日	平成23（2011）年3月31日

調査地区名	所在地	調査期間	調査面積	出土遺構	出土遺物	調査要因
西原地区	小林市野尻町三ヶ野山字西原	H22.3.29～3.30	16.5m ²	集石遺構	土器片 石器 須恵器等	農地改良 (個人)
白坂地区	小林市野尻町東麓字白坂	H22.7.16	3m ²	なし	なし	携帯電話無線 基地局建設
大豆別府地区	小林市真方字大豆別府	H22.7.27	21m ²	なし	なし	市道新設工事
石塚地区	小林市北西方字石塚	H22.9.28～ H22.9.29	13m ²	なし	なし	農業用倉庫及 び事務所建設
内屋敷地区	小林市真方字内屋敷	H23.1.7	3.3m ²	なし	なし	市道改良工事
奈佐木地区	小林市須木余佐木	H23.1.18	2.3m ²	なし	なし	携帯電話用基 地局建設
八久保地区	小林市野尻町紙屋字八久保	H23.1.21	1.2m ²	なし	なし	携帯電話用基 地局建設

**小林市文化財調査報告書第 7 集
市内遺跡発掘調査報告書**

平成 23 年 3 月

編集・発行 宮崎県小林市教育委員会
宮崎県小林市細野 300 番地
印 刷 江口印刷

